

❄️ * * * ❄️ * * **けいせん** * * * ❄️

2017. 1. 31

- 『ママ、もっと自信をもって』(中川季枝子 著・日経BP社)
- 『子どもの心の育てかた』(佐々木正美 著・河出書房新社)
- 『幸せはあなたの心が決める』(渡辺和子 著・PHP研究所)

最近読んだ本です。並べてタイトルを見ると「私ってどれだけ不安なんだろう」と情けなくなるような思っています。よくまわりの方から「先生にしたら子どものことよくわかっていでしょう」とか、「おてきな子育てをしているんじゃないか」と言っていてはいいんですが、とんでもない!! 現実はどうも、「宿題終わって?」とておねると「今しようと思っただけ!」と強い口調の長男に「うっ」。OOが先に行く〜!と一番にこたわり、もう一回を主張する次男に「うっ」。私自身の心と時間には余裕がある時は、「そっか。じゃあどうするかは任せるね。終わったら言って。まるつけするから。」と声をかけ、「今は勝負にこだわる時ではない」と見守ることができるのだが、それができな時は、一気に感情がバクバク。(それ後から落ち込む...) ついつい自分を責めてしまいます。幼稚園では子どもたちのことを守るのに、どうして家では(我が子は)守ってあげられなんでしょう。これまでの育て方、かかわり方がよくなかったのかな。どうして〜できなかったんだろう。と。

そんな時、熊丸みづ子さん(幼児教育専門家)の言葉に励まされます。
 「子どもたちは、生きる力の土台を身につける時、親を大人をいろいろさせます。いろいろするママたちも、いろいろさせる子どもたちも、川原調子。」
 「10手のかかる子は、10の生きる力を身につける。」 などなど。

子どもの成長は行きつ戻りつ。母としての成長も行きつ戻りつ、です。
 先日次男の4歳の誕生日に、長男に「お兄ちゃん4歳、おめでとう」と伝えると「じゃあ、ママは2児の母4歳だね!」と言われました。私はまだ「4歳」これからもっと成長できる... (はず!!)

子どもへの想い、子育ての仕方は人それぞれ。正解はないから悩みます。でも不正解もないと思うのです。だってお母さんはみんな我が子のことを誰よりも愛し、一生懸命自分のできる精一杯の子育てをしているんだから。だから、ちがってコツや、新しい気づきや学びがあれば、それまでの自分の子育てを否定せず、より効果的なかかわり方ができるのではないのでしょうか。そのきっかけになればと思い、2月に子育てについて語り合う会を予定しています。くわしくは後日お知らせ致します。ご一緒にお話ししましょう。

